

令和2年度 第3回岡崎市生涯学習推進委員会会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和3年3月12日（金） 10時00分～11時00分

2 開催場所

岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 会議室 302

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（7名）

益川 浩一 委員（岐阜大学地域協学センター長教授）
江良 友子 委員（愛知学泉短期大学講師）
山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表）
葉山 栄子 委員（岡崎市社会教育委員、名古屋学芸大学参与）
三矢 勝司 委員（特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた
事業推進マネージャー）
坂口 啓子 委員（市民公募委員）
浅岡 悦子 委員（市民公募委員）

(2) 欠席委員

なし

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

松田与一（市民協働推進課長）、清水英文（同課副課長）、鈴木智（同課総務
企画係長）、野澤成裕（同課活動支援係長）、内田千尋（主事）、林宏樹（主事）、
三宅知子（中央図書館長）、鈴木庸三（同館副館長）

5 傍聴者等

0名

6 委員長挨拶

（内容省略）

7 議題

- (1) パブリックコメントの結果について
- (2) 「第3次岡崎市生涯学習推進計画（案）」について
事務局から「パブリックコメントの結果」、「第3次岡崎市生涯学習推進計画（案）」について一括説明

<以下、各委員の意見等>

委員：パブリックコメントで「学習から実践へ」ということが指摘されている。このことに関連して思い出したこととして、「岡崎市図書館交流プラザ管理運営計画」では、「学び空間の拡大」についての記載があり、学びの支援主体として、行政、市民、団体、事業者、大学等との連携についての記載がある。今後、学習の支援主体の充実等で学びの空間が広がっていく構想が実現すると良いと感じた。

委員：本計画の中にも、「活躍と学びの循環」ということが記載されている。「活躍と学びの循環」がさらに広がっていくように、計画を推進していくことが必要だ。

委員：パブリックコメントを提出された方が2名で、意見の件数は、22件あり、それぞれ良い指摘だと感じているが、提出された人数については、「第1次岡崎市生涯学習推進計画」、「第2次岡崎市生涯学習推進計画」で比較してどうなのか。
岡崎市の人口は約38万人であり、その中で興味を持って意見を提出された人数が2名というのは、少し寂しいので今後パブリックコメントなどを求める際には、意見を出してもらいやすい工夫をお願いしたい。

委員：他の計画と比べてどうなのか気になるころではあるが、人数を見て少ないと感じるのは仕方ない部分である。また、パブリックコメントの実施が、実質的なものではなくアリバイ作りになっているのは、全国的な課題である。
パブリックコメントも市民協働における参画の一つなので、生涯学習推進計画に限らず計画の策定過程における参画をどのようにしていくか、市の課題として解決に向けて取り組んでほしい。

委員：パブリックコメントや計画は、市民にとっては身近ではないのかなと感じる。

別の話になるが、自動車や自転車で地域にある市民センターを回ったりしたが、市域が広いため、生涯学習に取り組もうとしてもそこに行き着くまでが大変だと感じている。

委員：パブリックコメントの中にも、窓口の充実などの意見が出されている。市民目線のわかりやすい、訪れやすい事業や講座を心掛けていかなければならないことを感じている。その辺りの意見に対してしっかりと留意しながら、施策を進めてほしい。

委員：P8、④「活動と学びあいのきっかけづくり」に記載された文章についてだが、「定期講座への講師採用などりぶら講座を学んだ」ではなく「りぶら講座で学んだ」ではないか。

その他にも改めて計画を見直してみると、言葉の重なりなど気になる部分があり、整理しておかないとわかりにくいと感じている。

委員：わかりにくいのは良くないので、見直す必要がある。最近では、文章を書かずに絵だけで表現している計画を出す自治体も出てきているので、わかりやすさを心掛けていくのは大事な視点である。表現方法について伝わるように精査させていただきたいので、お気づきの点があれば事務局へ出していただきたい。

委員：P1の「デジタル社会の進展や環境問題などの問題が」となっているので、「環境などの問題が」とした方がわかりやすい。

P14の(4)①で、「最寄りの図書館」は補足がいるのではないか。

委員：細かく精査すると多々出てくるとは思うが、適宜修正させていただきたい。

パブリックコメントを見て感じたのが、自治体の仕事は生涯学習推進の側面的な支援であると思っている。そこをあらためてしっかりと推進していく必要がある。

委員：パブリックコメントで提出された意見は、よく理解している人が提出されていると感心している。他の委員から地域での学習についてのご指摘もあったが、りぶらで実施していることを、地域の隅々ま

で届くような施策で推進してもらえると良いのではないかと思います。

委員：計画を絵に描いた餅に終わらせないように、そしてきめ細やかな形で展開していくことが必要となる。計画は理念的な部分が多くあるが、意見を受け止めながら、進めていただきたい。

委員：P40の(2)町内会等の部分で各団体を記載されているが元々つながりがあるものも並んでいるので、並びに不自然さを感じている。

委員：関係団体ということで記載されているが、岡崎市ではこのようなわけ方で問題ないのだろうか。

事務局：記載方法については、市民協働推進計画と整合性を図り、身近なものを列記させていただいている。関係性の部分ではもう少し詳細な表現があるが、すべてを記載することは難しいのでご理解をいただきたい。岡崎市では、町内会ごとに表現方法が変わっており、難しい部分はあるがこれでいきたいと考えている。

委員：P42のPDCAサイクルの工程表を作成することは難しいかもしれないが、例えば「基本計画に沿って各担当課等が実施する事業に対して、毎年進捗管理を実施します。」の文言を入れることはできないのか。令和12年までの推進期間の間で中間年である令和7年に一度見直すだけで、その間何もしないのかと捉えられかねない。基本計画に沿って推進されているか確認した方が良いと思う。

事務局：P42に「国や県の動向も踏まえながら、計画の分析、評価を行う」と記載させていただいたが、ここにご指摘いただいた毎年の進捗管理の意味合いを含んでいる。

委員：今回の計画では、定量的な部分が多くないため、定性的に毎年度進捗管理をしていくことになると思う。

委員：P40で町内会と自治会は併記する必要があるのかが1点目。2点目は、学区社協委員会が記載されていると、学区には総代会や学区福祉委員会があり、高齢者の健康など生涯学習の要素もあるのでそのあたりはどうか。

事務局：学区社会教育委員会は、生涯学習に近いということで、表記させていただいた。自治会については整理させていただきたい。

委員：今後、高齢化が進む中で高齢者の暮らしが、重要視されてくるので学区福祉委員会と連携していくことが、必要となるのではないかなと思う。

委員：以前、高齢者の社会福祉と生涯学習を結びつけるのはどうなのかと聞いたときは、それぞれで推進するとのことだった。最近では高齢者の生涯学習が忘れられている感じがする。

委員：研究でも、社会教育と社会福祉、生涯学習と福祉は切っても切れない関係であるとされ、最近では「社会教育福祉」という表現も出てきており、あらためて認識する必要がある。計画を進めるうえでは、その部分を見据えながら、忘れられる人が出ないようにしなければならない。

委員：今の話に関連してだが、りぶら講座では高齢者向きが多い。もちろん大事なことだが、これからの若い人たちが興味を持つようなものをしていかないと、発展していかないと考えている。今後教たい人や学びたい人も出てほしいと考えているので周知・啓発方法を考える必要があると思う。

委員：高齢者に対する支援は大切だが、若者に対する支援も避けては通れない部分である。地域学校協働活動ということ言えば、今後教育委員会と連携して取り組んでいくことになると思うが、学校との兼ね合いの部分が盛り込まれたのは良いと思う。
生涯学習を子どもから高齢者までを視野に入れながら抜け落ちることがないようにしていただきたい。

委員：若い方への生涯学習ということで、以前は高齢者との交流があったが、基本的に小学校は閉ざされた空間になっており、その壁を取り払うのはすごく難しい。

委員：教育と福祉、学校教育と社会教育の壁など様々な障壁があるが、学校と地域はお互いにつながりが必要である。

地域とともにある学校づくりとして、若い世代との地域交流、つながりは、今後まちづくりをするうえで、必須になると考えられるので風通しを良くしてもらうことは一つの課題だと思っている。

委員：それぞれの事業が、この計画に基づいて実施しているものであることを、様々な機会で周知して行ってほしい。例えば、講座の冒頭でそういったことを紹介するなど、小さいことの積み重ねで浸透していくと思うので、市民の方に理解してもらえるようご留意いただきたい。

8 連絡事項

令和3年度以降の委員会については、日程が決まり次第ご連絡させていただきます。

－ 会 議 終 了 －